

平成 21 年 6 月 25 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18520278  
 研究課題名（和文）植民地期旧「満洲」地域における朝鮮人文学者たちの活動研究  
 研究課題名（英文）A Study on Korean writers in a colony period “Manchuria” area

研究代表者  
 布袋 敏博（HOTEI, Toshihiro）  
 早稲田大学・国際教養学術院・教授  
 研究者番号：30367122

## 研究成果の概要：

2006 年 8 月に、中国東北地方（延吉、長春、大連）に赴き、文学者たちの居住地および資料の調査を行ない、長春（旧・新京）では、安壽吉、廉想渉、玄卿駿らの居住地域を、大略推定することができた。また、解放後、旧満州地域から北朝鮮に移り住み、文学活動を行なうことになった文学者たちの、解放直後の北部朝鮮での足跡は長らく不明であったが、それらを大略確認することができた。そうした活動の一つである、1946 年 8 月 15 日に、解放一週を記念して一挙に出版された一群の記念作品集のうち、詩集アンソロジー『巨流（八・一五解放一週年紀念）』（八・一五解放一週年紀念 中央準備委員会編・発行、1946 年 8 月 15 日、ピョンヤン）を入手できたのも、今回の研究調査での大きな収穫の一つであったといえる。

さらに、植民地期、旧満州で、日本名で日本語作品を多く発表したとされながら、その作品を確認することの困難な、日本人名「今村栄治」の作品を、まとめて新発掘することができた。これらはいずれ、資料集として公刊する予定である。しかし、下記 4 の「研究成果」にも記したごとく、中国、ことに資料所蔵の一大中心地である大連において、日本人に資料を公開しないという状況が続いている。2009 年度の科研費申請を見送った所以である。今後、これが解禁された後に、図書館の所蔵資料を調査する必要がある。以後の課題としたい。

## 交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,100,000	0	1,100,000
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	390,000	2,790,000

## 研究分野：人文学

科研費の分科・細目：「文学」、「各国文学・文学論」

キーワード：朝鮮近代文学、植民地、旧「満州」地域、北朝鮮、新聞

## 1. 研究開始当初の背景：

研究代表者は、1996 年に、韓国のソウル大学校人文大学国語国文学大学院に修士論文「日帝末期日本語小説研究」（朝鮮語）を提出した。これは、日本が朝鮮を植民地支配

していた時期の最末期（日帝末期。これを筆者は 1939～45 年と規定した）に、朝鮮人文学者が、非母語である「日本語」で書いた、もしくは書かざるを得なかった、小説を中心とした文学作品を調査、総網羅し、整理、分

析したものであった。さらに当論文では、日帝末期の時期のみならず、近代以降、日帝末期に至るまでの過程で、朝鮮人文学者たちが発表した「日本語作品」も調査し、通時的に「日本語作品」の流れを見ようとした。

この修士論文発表の後、調査資料をもとに1997年1月に『朝鮮文学関係日本語文献目録 - 1882.4 ~ 1945.8 -』を編集刊行した。なおこの目録出版は、1996年度、文部省科学研究費補助金によっている。

さらに、2002年2月には、『「毎日新報」文学関係記事索引 - 1939.1 ~ 1945.12.31 -』を編集刊行したが、これは2001年度、文部省科学研究費補助金によったものである。

論文発表に引き続くこうした一連の目録の刊行と平行して、2001年からは、その原典資料編ともいふべき、『近代朝鮮文学日本語作品集』の編集刊行を開始した。それらは、現在も継続して刊行中であるが、現時点まで刊行されているのは次のとおりである。

『近代朝鮮文学日本語作品集 1939 ~ 1945 (創作篇)』全6巻、2001年12月

『近代朝鮮文学日本語作品集 1939 ~ 1945 (評論・随筆篇)』全3巻、2002年3月

『近代朝鮮文学日本語作品集 1901 ~ 1938 (創作篇(小説))』全5巻、2004年6月

『近代朝鮮文学日本語作品集 1901 ~ 1938 (評論・随筆篇)』全3巻、2004年10月

『近代朝鮮文学日本語作品集 1908 ~ 1945 (セレクション)』全6巻、2008年6月15日

以上、発行所はいずれも緑蔭書房。

また、この間に、2000年と2001年には、今回の研究テーマにつながる以下のような資料集を編集刊行した。

『旧「満洲」文学関係資料集(一) - 「満洲日日新聞」「京城日報」 - 』(2000年3月)

『旧「満洲」文学関係資料集(二)』(2001年3月)

以上が修士論文と関連した、それに引き続く研究作業であるが、修士論文からはさらに別のテーマも派生してきた。

それがすなわち、博士論文「初期北朝鮮文壇成立過程に対する研究」である。これは、日帝末期 = 植民地末期に、日本語による作品活動を行なった文学者の少なからぬ者たちが、解放後には北部朝鮮に渡って行っているという事実に基づくものであった。すなわち、初期の北朝鮮の文壇状況を調査する必要性が出てきたわけである。

さらにはまた、この北部朝鮮における文壇の形成に関わる者たちの一部が、旧「満洲」からやって来た者であるということから、旧「満洲」地域での朝鮮人文学者たちの活動実態の調査研究が必要となってきた。これは、植民地末期に、植民地朝鮮を嫌い満洲に渡っていった朝鮮人文学者の足跡をたどること

と同義である。

そうした文学者たちのうちの一人に、玄卿俊がいるが、彼は新京(現・長春)に住み、活動した文学者で、解放後は北にとどまり、初期の北朝鮮文壇で活躍した朝鮮人作家である。

研究代表者は、2006年2月に、中国・延辺の朝鮮族研究者および韓国人研究者とともに、韓国・宝庫社から刊行された『中国朝鮮族文学大系』の第9巻「玄卿俊篇」を、編者の一人として編集刊行した。

以上が、今回の研究開始の背景であるが、こうした作業、調査は、長期にわたる地道な努力を要し、それにとりまう費用も必要となってくる。科研費のような性格の補助に申請し、またその援助を必要とする所以である。

## 2. 研究の目的:

上記の1に記したとおり、植民地末期に、植民地朝鮮を離れ満洲地域に渡って行った朝鮮人文学者たちの活動実態を知ることは、植民地朝鮮の文学活動を保管する作業である。この旧「満洲」地域での朝鮮人文学者たちの実態を明らかにする作業は、いまだ充分になされていないとはいえないが、明かされねばならない重要な作業である。

さらにまたこれは、北朝鮮の初期の文学状況を知る上でも必要不可欠な作業である。

以上のような理由から、いまだ充分に明らかにされているとはいえない旧「満洲」地域における朝鮮人文学者たちの活動実態を明らかにすることを第一目的とした。

## 3. 研究の方法:

以上のような理由で、本研究は、旧「満洲」地域における朝鮮人文学者たちの活動実態を明らかにすることを第一目的としたが、何よりも、いまだ旧「満洲」地域における、当時の新聞・雑誌・単行本等の出版実態について、総体的な把握がなされているとはとてもいえない現状である。したがって、現地へ赴き、まず当地の各図書館の所蔵実態をしらみつぶしに調査する方法を選んだ。

また、近年刊行が進んでいる新聞の復刻版や、マイクロ・フィルムの調査も引き続き行なった。

## 4. 研究成果:

初年度、2006年度に、延吉、長春を経て、最大の目的地であった大連の旧満鉄図書館(現・大連図書館)を訪れたところ、開口一番、担当者はこちらの顔も見ずに、日本人には資料を見せない、とけんもほろろの態度であった。これで、最初から計画の目論見が大きく外れた。

この時、瀋陽図書館は、館内資料を整理中で、閲覧できないことはわかっていたので目

的地から外してあった。

しかし、この大連図書館については、2000年5月に出版された李相哲氏著『満州における日本人経営新聞の歴史』(凱風社)の中で、著者が、新聞資料はマイクロ・フィルムに収められ、誰でも閲覧できると記してあり、またその光景を写真で示してもあったし、この調査旅行時に通訳を兼ねて案内してくれた、研究者仲間の金長善・天津大学教授からも、その2年前には自由に閲覧できたとの情報を得ていたので、この反応は予想もしていなかったし、大きな痛手でもあった。したがって、やむなく予定を変更するほかなくなったのは、研究遂行に大きな障害となった。

なお、帰国後、金長善教授から連絡が来て、あちこちで調べたところ、どうやらこうした中国側の態度は、その2年ほど前に、ある日本人が持ち出してはならないといわれていたにもかかわらず、資料を持ち出し、外で公開してしまったことがあり、そのためにこうした硬直した態度を見せているのだということであった。しかし、真偽のほどは不明である。

しかしながら、この時の中国行で、今村栄治の日本語小説を数篇入手することができたのは大きな収穫であった。今村栄治は、その人物がいまだよくわからない朝鮮人文学者で、日本名しか明らかになっていない。またその文学活動も不明で、作品も多く眠ったままである。これらの新発掘資料は、その他の今村の未公開資料とともに、次々回刊行を予定している『近代朝鮮文学日本語作品集旧「満州」文学関係資料集』(仮題)に収録刊行の予定である。

また、この時の調査で、新京(現・長春)に在住していた安壽吉、廉想渉、玄卿俊といった文学者たちの居住区域を、大まかにではあるが特定することができたのも、大きな成果であった。

そして、延吉市の延辺大学では、以前に行ったときは整理中のため見ることのできなかった単行本を閲覧・調査することができ、解放直後、北朝鮮で刊行された詩集アンソロジー『巨流(八・一五解放一週年紀念)』(八・一五解放一週年紀念 中央準備委員会編・発行、1946年8月15日、ピョンヤン)を入手できたのも大きな収穫であった。

ともあれ、以上のような状況で、やむなく、中国各地の図書館調査は次の機会まで待つことにし、今回の研究期間は、それまでに着手していた課題の二つを中心にして、それらを仕上げることを優先させた。

すなわち、関係する文学者の一人である、蔡萬植の長篇小説『太平天下』の翻訳作業と、旧満州地域の文学者たちの、解放後の活動実態の一つである、初期北朝鮮における文壇での活躍状況、および初期北朝鮮の文壇形成過

程の研究に力点を置いた。

蔡萬植は、植民地末期によくみられた、朝鮮人文学者の満洲派遣に加わった一人である。1942年12月末に旧「満洲」に派遣された蔡萬植は、1943年2月には、『毎日新報』に「間島行」を寄稿している(2月17日~24日、全8回)。またこれは前述の『旧「満洲」文学関係資料集(二)』に収録してされている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

・著者名:布袋敏博

・論文タイトル:「初期北朝鮮文壇の形成過程について - 金史良の場合を中心に」(朝鮮語)

・提出先:韓国・ソウル大学校人文大学国語国文学科大学院博士論文(査読付き)

・発表年:2007年2月

・総ページ数:103p.

[学会発表](計2件)

(1)「初期北朝鮮文壇の形成過程について」

発表日時:2008年10月26日

学会名:朝鮮史研究会第45回大会

場所:京都・仏教大学

発表言語:日本語

(2)「解放空間期の北韓文学」

発表日時:2008年10月30日

学会名:Liberation Space Conference

場所:米国シアトル・ワシントン大学

発表言語:朝鮮語、英語

[図書](計2件)

(1)蔡萬植著、布袋敏博・熊木勉訳『太平天下』

発行日:2009年3月25日

出版社:平凡社

総ページ数:437p.

本翻訳本は、長篇「太平天下」、短篇「レディメイド人生」、「民族の罪人」の3篇からなっており、それに「解説」が付されている。各ページ数は次のとおりである。

「太平天下」(布袋敏博・熊木勉共訳) = pp.5 ~ 295

「レディメイド人生」(熊木勉訳) = pp.297 ~ 341

「民族の罪人」(熊木勉訳) = pp.343 ~ 408

「解説」(布袋敏博) = pp.409 ~ 437

(2) 布袋敏博、大村益夫編『近代朝鮮文学日本語作品集 1908~1945 セレクション』

全6巻

発行日：2008年6月15日

出版社：緑蔭書房

総ページ数：

第1巻 = 481p.

第2巻 = 496p.

第3巻 = 475p.

第4巻 = 502p.

第5巻 = 380p.

第6巻 = 400p.

第6巻のうち、解説（布袋敏博） =  
pp.347～400

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

なし

取得状況（計 件）

なし

〔その他〕

なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

布袋 敏博 (HOTEI TOSHIHIRO)

早稲田大学・国際教養学院・教授

研究者番号：30367122